

令和3年度 学校評価（自己評価）報告書

認定こども園千葉明德短期大学附属幼稚園

1 本園の教育理念・目標・方針

● 教育理念

学園建学の精神に基づき、豊かな情操と自主自立の態度を養い、心身共に健康な幼児を育成する。

「明德を明らかにすること」が建学の精神です。明德とは人が天から得たすぐれた能力、人間として生まれながらに持っている人間性をいい、明德を明らかにする、とはそれを輝かせるということ。そのためにはまず、幼児期には健康な身体と他者との対話力、直接体験を通じた知恵と知識を身につけ、徳性・知性を究める必要があります。そうすれば、善悪の判断ができるようになり、心が正しく豊かなものになると、創立以来引き継がれています。

● 教育目標

明るく・強く・素直な子

● 教育方針・特色

めいとくの森で自己形成する楽しさを実感する

～将来伸びる子は自然を通して、知的好奇心を育てています～

①自然とかかわり、五感（視る・聴く・嗅ぐ・味わう・触れる）をはたらかせて知を育み、楽しむ保育

②体を動かして遊ぶ楽しさを実感する保育

③ものを作る楽しさと、試行錯誤しながら工夫するおもしろさを味わう保育

④さまざまな思いを共感しあい、人とかかわりを豊かにしていく保育

2 本年度のねらい

50年余りに渡り積み重ねてきた本園の保育実践をもとに、一人ひとりの子どもを大切に、明德の自然の中で友だちとの気づきや感動を共有して遊び、さまざまな人とつながり生きる力を育てていく。(2年次)

幼稚園機能と保育園機能をもつ幼稚園型認定こども園として一体的な教育・保育を行う。(2年次)

3 総合評価

No	評価項目	評価のまとめ
1	教育目標・教育方針	教育目標、教育方針の理解のもと、教育・保育課程や、指導計画について各学年毎に話し合う機会を設けてきた。しかし園職員全体での共通理解に至る必要十分な時間を確保できず、年齢毎の育ちや他学年との連携についてなど、課題が残る。
2	教育課程・指導計画	
3	教育環境	教育環境について、学園の自然や施設を活用する事ができた。自然に恵まれた環境の中で、子どもの興味関心に寄り添いながら活動を展開したが、共通理解の不足から安全面での配慮を欠いてしまう場面もあった。主体的に環境を再構成したり、自然を活用した活動の内容をより深めるなどのほか、職員間での積極的な意見交換にも力をいれ更なる改善に努めたい。 その他、幼小の連携面では、コロナ禍のため小学校への訪問はできなかったが、子どもたちの質問を小学校へ届け、それに対して写真や文字で答えていただき、昨年度同様連携をとる事ができた。
4	教育の内容方法	
5	教師の役割・資質の向上	子ども一人ひとりの想いに寄り添いながら、個々人の発達段階・興味関心に応じた教育・保育を心がけている。しかし、かみつきやケガの状況などを保護者と共有する場面では難しさを感じることもあった。 また千葉市幼稚園協会の研修参加のほか、今年度は短大の先生方とともに、3歳未満児の保育といった各テーマの園内研修を行い、内容に応じて職員全員が参加できる機会を設け、資質の向上に務めた。
6	特別支援教育	支援の必要な子に対して同学年での理解は得られていたが、必要な関わりについては、担当職員任せになってしまう面があった。千葉市幼稚園協会での特別支援研修もあったが参加できる職員は少なかった。
7	保護者との連携	保護者からの意見や要望については丁寧な対応をしてきた。コロナ禍という事で、今年度も園行事への保護者の積極的な参加を促す体制づくりに苦労したが、密を避けた保育参観は、保護者、子どもともに落ち着いて行う事ができた。運動会は、戸外活動という事で保護者2名の参加とし、保護者からは「運動会を両親で見られて良かった」という意見を多く頂戴した。表現の集いでは、室内という事で1名の参加としたが、「表現の集いも両親で参加したかった」という意見が多く聞かれ、開催方法などの再考を要する。 園に来ていただく機会が少ないことから、新しく保育の動画配信を始めたところ、「普段家庭では見られない姿が見れてよかった。」という声も聞かれた。

8	子育て支援	預かり保育については、保護者の要望を踏まえ柔軟に対応してきた。未就園児対象の預かり保育については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等で十分な回数を行う事はできなかったが、保護者支援としての役割と存在感が増している。子育て支援については地域開放型の「園JOY」と「園庭開放」にまとめたことで、内容がわかりやすくなった。
9	運営管理	園務分掌で役割を意識し取り組んでいるが、不規則な勤務体制ということもあり、業務内容によっては、残務が続いてしまっている。安全管理面では、園児と職員の不審者訓練だけでなく、職員と警察の方と別の不審者訓練も行い、対応方法の指導を受けた。幼稚園の門については、施錠の強化を希望するよう保護者からの意見も出ている。
10	学園内での連携・交流	日常の保育時間における園庭活動の中で、昨年度に引き続き学園理事長が虫や木の実についての子どもたちの知識を深める機会をもち、夏に行った年長組お楽しみ会でも園庭の自然について子どもたち・職員に教授いただく事ができた。また、中高の校長先生の下、年長児が稲の成長や脱穀の様子を観察する事ができ、収穫、食育へとつながった。職員においても、短大の先生方とともに年間を通して園内研修を行ったり、系列こども園での保育見学を行ったりと、学びとともに連携と交流を深めている。

4 今後取り組むべき課題

運営管理	子ども園となり4年が経過した。子どもの保育時間の変更に对应すべく、引き続き園務内容の整理、見直しを行い、更なる運営体制の改革に取り組む。コロナ禍3年目となるが、園児、職員、保護者の健康、安心安全を優先しながらも、新しい生活様式下での園運営、教育活動及び行事のあり方などの見直しを図っていく。その上で、園の考えや活動内容の情報発信を丁寧に行い、保護者の更なる理解と協力を得られるようにしていく。
教職員の資質向上	子ども理解を深めるために、広い視野をもち、さらに積極的に研修研究活動に取り組めるように、園内研修の充実を図る。また新任教諭も増えるので、園内での研修と並行し、短大と協力しながら系列園での新人研修も行っていく。
子育て支援の取り組みの充実	保護者や地域の方からの要望がある「園庭開放」「園JOY」を引き続き行っていく。また、未就園児親子が集える機会も増やししながら、気軽に子育てについての話ができる雰囲気を作っていく。